

ハワイ語における着用動詞について*

塩谷 亨

Verbs for “to wear / to put on” in Hawaiian

Toru SHIONOYA

要旨：ハワイ語の着用動詞には、動作と状態による使い分けはなく、身体部位の指定による使い分けが見られた。また、腰への着用を表す着用動詞については、巻き方の方向という動作様態の違いによると思われる使い分けが見られた。また、多くの着用動詞について、同族目的語をとるという点も特徴的である。さらに、伝統的な衣装と欧米からもたらされた洋服との区別による使い分けも見られる。

キーワード：ハワイ語 着用動詞

1. イントロダクション

金田一(1988:214)が指摘するように、日本語においては、「着る」、「はく」、「かぶる」、「しめる」等の衣服等の着用を表す動詞のバリエーションが、例えば英語のように“to wear/ to put on”で表してしまう言語に比べて、豊かである。その為、日本語の着用動詞の研究や、日本語とほかの言語の着用動詞に関する対照研究は多くなされてきている。

その中の一つ、日本語と英語の語彙構造の比較を行った影山(1980:95,102)は日本語と英語の着用動詞の違いとして二つの点を指摘している。第一は、動作と状態の違いである。日本語の「着る」などの着用動詞は動作も状態も表すのに対して、英語の wear は状態に put on は動作に用いられると述べている。第二は、身体部位の指定である。日本語の「着る」、「はく」、「かぶる」には身体部位の指定があるのに対して、英語の wear は身体的指定をもたないと指摘している。

その他に、影山(1980:81,92)は、着用動詞の意味を分析する上での興味深い着眼点として、二つの点を示している。一つは動作様態である。例えば、足を通さない動作では「はく」という表現を許容しない人が存在する、というように、話者による違いとしてはあるが、動作様態の違いによる使い分けの存在が指摘されている。もう一つは、上着、ズボン、スカート、靴、帽子等の主要衣類と包帯、ネクタイ、指輪等の二次的衣類の区分である。着用動詞として、前者は「～する」を取らないのに対して、後者は「～する」を取るという点で文法的な違いを持つと指摘している。

本稿では、ハワイ語で用いられる様々な着用動詞の用法について分析し、対照的に考察を

行う。その際、上記四つの点に加えて、もう一つの視点を提示する。それは、同族目的語である。ハワイ語では、例えば、**hula** という単語が名詞としては「踊り」の意味を、動詞としては「踊る」の意味を表すように、同じ形式で、動詞としても名詞としても用いられる語が多数存在する¹。着用動詞の中にも同族目的語の例がみられるが、どのような場合に見られるのかについて、傾向性が見いだせるかどうかについて考察する。

今回用いた分析データはすべて文字データである。ハワイ語は 19 世紀末のハワイ王国転覆を経て急速に衰退し、ハワイ語母語話者数も激減した。その後、1970 年代から復興運動が盛んになり、現在は、ハワイ語を学校で学びハワイ語を習得した話者も多いが、本来のハワイ語の姿を知るためには、19 世紀後半以降、文字として記録された文字データに頼るのが有効な方法となっている。本稿では、ハワイ語で記録された民話・伝説、歴史、歌、伝統文化についての記述、聖書及び関連書物等の出版物、及び、ハワイ語で刊行されていた新聞をデータとして用いた。ハワイ語新聞については、Web 上で公開されている Hawaiian Electronic Library Ulukau の中にある、Hawaiian Newspaper Collection (<https://nupepa.org/>)を利用した。

第二章では様々な着用動詞の用例と分析を示す。第三章では、上述の五つの視点により、ハワイ語の着用動詞について考察する。

2. ハワイ語の着用動詞の用例

2.1. ‘a‘ahu

Pukui and Elbert(1986:2)では、‘a‘ahu の着用動詞としての用法について“to put on or wear clothing, especially, shirt, suit, or coat”と記述している。実際、上半身に着用する様々な衣服の着用を表すのに用いられる。

(1) ...‘a‘ole ia e ‘a‘ahu i ke kapa² kahiko,...³

否定 彼女 未完了 着る ~を 定冠詞 衣服 古い

「...彼女は古い衣服を着ない...」(Fornander 1917-20 vol. 6:3)

一般的な衣服以外に、平民ではなく主に貴族の衣服（多くは鳥の羽等で作られていた）の着用についても、‘a‘ahu が頻繁に用いられる。

¹ 例えば、‘ai という語には、動詞としては「食べる」、名詞としては「食べ物」の意味があり、以下のよう同族目的語を取る例がある。

...‘a‘ohe ‘ai i ka ‘ai,...

否定 食べる ~を 定冠詞 食べ物 「...食べ物を食べない...」(Fornander 1917-1920 vol.4:83)

² この例文中の kapa は木の皮を叩いて作ったタバ布を指すが、かつては衣類一般およびシーツなどの寝具を指した (Pukui and Elbert 1986:130)。ハワイでは伝統的に主要な衣服や寝具はタバ布で作られていたことを反映していると思われる。

³ 以下、例文では着用動詞を太字で、着用される衣服等を下線で示す。また、日本語の着用動詞と使用区分が一致しない場合があるので、着用動詞のグロスを付ける際に、日本語の着用動詞と対応させるのが困難な場合は「着用する」と表示する。

- (2) ‘A‘ahu nō ‘oe i ka ‘ahu‘ula.
着る 強調 あなた ～を 定冠詞 アフウラ
「あなたはアフウラを着る。」 (Testa 2003:6)

上記の例の‘ahu‘ula「アフウラ」とは羽毛で作ったハワイの伝統的なマントでありかつては貴族の象徴でもあった。

これまでに示した例のように上半身に身につける衣服の着用に加えて、頭の上に着用する場合も、‘a‘ahu を用いることがある。

- (3) ...a ‘a‘ahu nō ‘o Ka‘iana i kona mahiole, ame kona ‘a‘ahu ‘ahu‘ula,...
そして 着用する 強調 人名 カイアナ ～を 彼の マヒオレ と 彼の 衣服 アフウラ
「...そしてカイアナはマヒオレとアフウラの衣服を着用して...」 (Desha 1996 vol.1:328)

上記の例中の mahiole「マヒオレ」は羽毛でできたヘルメットであり、ここではその後ろの‘ahu‘ula「アフウラ」と併せて、動詞‘a‘ahu で着用を表している。⁴

上述の例は主にハワイの伝統的な衣服について用いられている例であったが、それ以外に、欧米からもたらされた洋服の着用についても‘a‘ahu で表す例が見られる。

- (4) ...e ho‘oka‘aweale aku i ka poe ‘a‘ole i ‘a‘ahu i
未完了 除外する 方向詞 ～を 定冠詞 人々 否定 完了 着用する ～を
ka pālule ‘ula‘ula.
定冠詞 シャツ 赤い
「...赤いシャツを着ていない人々を除外する。」
(Ko Hawaii Ponoī, Volume I, Number 46, 29 April 1874:2)

上記の例で pālule「シャツ」は元々ハワイにあったものではなく、欧米からもたらされた洋服であるが、その着用を‘a‘ahu によって表している。⁵

⁴ ‘a‘ahu には動詞の意味に加えて名詞の意味「衣服一般」もある(Pukui and Elbert 1986:2)。

⁵ 上記の例では‘a‘ahu は目的語として衣服を取り「～を着用する」という着用動詞として用いられていたが、人を目的語として「(人)を(何かで)包む」の意味で主に受動態で用いられることがあり、「～で」(具格)の部分に衣服が来ることもある。

Ua ‘a‘ahu ‘ia lākou me nā kīhei kalukalu kīkepa.

完了 包む 受動態 彼ら ～で 複数 キーヘイ カルカル布 たすきがけの

「彼らはカルカル布のたすきがけのキーヘイで包まれた (=キーヘイを着用した)」 (Desha 1996 vol.2: 109)

上記の例の kīhei「キーヘイ」とは肩から上半身を覆うショールのことである。ここで「彼らはキーヘイで包まれた」は結果的に「彼らはキーヘイを着用した」という状況を表している。

2.2. komo

Pukui and Elbert (1986:164)によれば、komo の基本的な意味は「入る」であるが、それに加えて、着用動詞としての用法について、“To dress, put on, wear (any garment, formerly only lower garment)”と記述されている。実際、ズボンや靴など下半身に着用する様々な衣服に加えて、上半身に身に着けるシャツやコート等様々な衣服の着用を komo によって表す例がある。

(5) Ua komo ‘o ia i ke kāma‘a, i ka buti, i ka lole wāwae,

完了着用する 彼 ～を 定冠詞 靴 ～を 定冠詞 ブーツ ～を 定冠詞 ズボン

i ke kuka,...

～を 定冠詞 コート

「彼は靴を、ブーツを、ズボンを、コートを着用し...」

(Ka Nupepa Kuokoa, Volume V, Number 46, 17 November 1866:4)

上記の例において、動詞 komo が下半身に身に着ける kāma‘a「靴」、buti「ブーツ」、lole wāwae「ズボン」及び上半身に身に着ける kuka「コート」の着用を表している。

その他、シャツ（前節の例で示したように、シャツの着用は‘a‘ahu によっても表される）や帽子などの着用にも komo が用いられる。いずれも上半身に着用するものである。

(6) ...komo ‘o ia i kona pālule pongee, me kona pāpale,...

着用する彼 ～を 彼の シャツ ポンジー布 ～と 彼の 帽子

「彼はポンジー布のシャツと帽子を着用して」(Kauhi 1996:18-19)

これまで komo の例として示したものは、いずれも、元々ハワイにはなく欧米から持ち込まれた洋服の類である。前節で示した‘a‘ahu はハワイの伝統的な衣類と欧米から持ち込まれた洋服の両方の着用を表すのに用いられていたのに対し、komo については伝統的な衣類の着用を表している例は発見できなかった。

2.3. pāpale

前の二つの節で「帽子」という名詞として登場した pāpale には、着用動詞としての意味もある。pāpale の着用動詞としての用法は Pukui and Elbert(1986:318)では”to put on a hat, wear a hat”として記述され、以下のような例文も提示されている。

(7) Pāpale i ka pāpale.

着用する～を 定冠詞 帽子

「帽子をかぶる」(Pukui and Elbert 1986:318)

上記の例で、最初の pāpale は着用動詞「(帽子を) 着用する(=かぶる)」で、後ろの pāpale 「帽

子」は着用動詞の目的語である⁶。

帽子以外のものを頭にかぶる場合も、着用動詞として *pāpale* が用いられる。

(8) *He po'i lā'au ka'u e pāpale nei*

不定冠詞 器 木 私の 未完了 着用する 指示詞

「彼がかぶっていたのは木の器だった」(Fornander 1917-20 vol. 5:451)

上記の例は、民話からのもので、タロイモが入っていた器があり、タロイモを食べ終わった後で、その器を頭にかぶったという状況を表したものである。

2.4. *hume* と *kākua*

ハワイの伝統的な衣服として最も基本的なものは、*malo*「マロ」と *pā'ū*「パーウー」である。いずれも、一枚の長方形の布であるが、マロは日本のふんどしによく似ていて主に男性が腰に巻き付けるものであり、一方、パーウーは主に女性がスカート状に腰に巻く腰布である。それぞれ、異なる着用動詞が用いられる。

(9) *No'u ka malo, nāna e hume.*

私の 定冠詞 マロ 行為者-彼 未完了 締める

No'u ka pā'ū, nāna e kākua.

私の 定冠詞 パーウー 行為者-彼女 未完了 着用する

「マロは私のもの、彼が(それを)締める。パーウーは私のもの、彼女が(それを)巻く。」

(Handy and Pukui 2006: 181)

上記の例は下着にあたるものをシェアできるくらい親しい間柄であることを表す表現である。マロの着用には *hume* が、パーウーの着用には *kākua* がそれぞれ着用動詞として用いられている。用いる布の形状（マロは細くてかなり長い形状で、パーウーはマロに比べると幅広で長さは短い）と細かい巻き方（マロは股下で挟んでから横にぐるぐる巻きつけるが、パーウーは腰に巻くだけである）は異なるものの、いずれも腰に布を巻く衣服という点で共通である。それにもかかわらず、用いる着用動詞がこのように区別されている。

2.5. *lei*

ハワイには草花や果実、鳥の羽、貝殻、骨等で作った様々なレイがあり、首や頭に着用する。レイは今も昔も重要な正装の一部である。様々なレイ或いはリング状のものの着用を表

⁶ 前節で「帽子をかぶる」という表現では、着用動詞として *komo* も用いられることを示した。Pukui and Elbert(1986:318)は「帽子をかぶる」に *komo* を用いるのは新しい形式であると指摘している。Pukui and Elbert(1986:165)で、*komo* は元々下半身の衣服に用いられていたと述べていることから、*komo* が上半身の衣服にも用いられるようになったのに伴い、帽子にも *komo* が用いられるようになったものと思われる。

すのに用いられる着用動詞は lei である。

(10) A lei i ka lei o ka lanakila...

そして 着用する ～を 定冠詞 レイ ～の 定冠詞 勝利

「そして勝利のレイをかける。...」(Testa 2003:29)

最初の lei が着用動詞「(レイを) 着用する」で、後ろの lei は名詞「レイ」がその目的語となっている。

着用動詞 lei があれば「レイを着用する」という意味は明確であるため、しばしば、目的語には lei 「レイ」が省かれてレイの材料のみが現れる。

(11) ..., a lei iho la i ka palaoa,...

そして 着用する 方向詞 指示詞 ～を 定冠詞 鯨骨

「そして鯨骨 (のレイ) をかけて...」(Fornander 1979-1920 vol. 4:603)

(12) Lei ana⁷ i ka mokihana.

着用する 指示詞 ～を 定冠詞 モキハナ

「モキハナ (のレイ) をかけている」(Elbert and Mahoe 1970:75)

上記の例では、いずれも着用動詞の目的語に lei 「レイ」は含まれていないが、それぞれ鯨骨で作ったレイ (貴族の象徴)、モキハナ (植物名、その葉や果実でレイを作る) のレイを着用していることを表している。

着用動詞 lei は首だけではなく、頭にリング状のものを装着する場合にも用いられる。

(13).. e lei ana i kekahi mea ma kona 'ā'i a ma

未完了 着用する 指示詞 ～を 何かの 物 ～に 彼の 首 ～と ～に

ke po'o paha,...

定冠詞 頭 又は

「彼の首にまたは頭に (リング状の) 何かを着用している...」

(Ka Nupepa Kuokoa, Volume VIII, Number 31, 31 July 1869: 1)

上記の例では着用動詞 lei の目的語は kakhi mea 「何かのもの」であるが、ここでは何かしらのリング状のものを指すと考えられる。

⁷ 動詞の後に付加されている ana は指示詞の一種であるが、動詞の後に付加されると、未完了や進行の意味を表す。ここでは、その晩 (過去) の出来事であるので、過去進行形を表していると考えられる。

2.6. kau

頭の上に着用する衣服等の着用について、前の節までに示した着用動詞以外に、kau（基本的な意味は「置く」）を用いて表す場合がある。例えば、2.1節では着用動詞‘a‘ahuで着用を表していた mahiole「マヒオレ（羽製のヘルメット）」の着用について、kauで表している例がある。

- (14) ...kau iho la i ka mahiole ‘ie i haku ‘ia
置く 自身 指示詞 ～を定冠詞 マヒオレ 編んだ 完了 作る 受動態
i ka hulu o na ‘i‘iwi.
～で 定冠詞 羽 ～の 複数 イイヴィ
「イイヴィ(鳥)の羽で編んで作られたマヒオレを（頭に）着用した。」(Haleole 2001:90)

上記の例は、そのまま直訳すれば「マヒオレを置いた」であるが、状況から考えて、「マヒオレを着用した」と解釈できる。

2.5節でリング状のものを頭に着用する場合に動詞 lei が用いられることを述べた。同様の状況が動詞 kau で表される場合がある。

- (15)...no ke kau ana i ka lei ma ke po‘o
～のために 定冠詞 置く 動名詞 ～を 定冠詞 王冠 ～に 定冠詞 頭
o ka Mō‘ī nui o Alexander II,...
～の 定冠詞 王 大きな 固有名詞 A. II
「皇帝 Alexander2 世の頭に王冠を置くことのために...」
(Ka Hae Hawaii, Volume 1, Number 41, 10 December 1856:162)

上記の例で lei は「王冠」という意味で用いられている。

kau は一般的には「何かをある場所に置く」という意味であり、衣服の着用以外にも様々な場合に用いられる。以下の例は、地中オーブン（掘った穴に薪を燃やしてその上に食材を置いてふたをする伝統的な調理法）で豚を丸焼きにする手順の説明である。

- (16) ...‘u‘umi ka pua‘a, kau i ka imu...
絞め殺す 定冠詞 豚 置く ～を 定冠詞 地中オーブン
「豚を絞め殺し、（それを）地中オーブンに置く」(Fornander 1917-1920 vol.5:684)

2.7. hāwele、uhi、kōkī

この節では、前節までに見てきた主要な着用動詞以外の、比較的用例が少ない着用動詞の事例について見る。

靴の着用を表すのに動詞 hāwele が用いられることがある。Pukui and Elbert (1986: 62)によ

れば *hāwele* の基本的な意味は「結ぶ、結える」となっているが、聖書及び聖書の内容に言及する場合に「(靴を)履く」の意味でしばしば用いられている。

(17) E *hāwele* i na *kāma‘a*,...

命令 履く ～を 複数 靴

「靴を履きなさい...」

(Ka Nupepa Kuokoa, Volume XXXI, Number 51, 17 December 1892:4)

その他、得られたデータが少なかつたため前の節まででは扱わなかったが、*uhi* と *kōkī* も着用動詞として用いられている事例がある。

(18) ...‘o *ka manawa nō ia i kākua ai nā pū‘ali a*

名詞述語 定冠詞 時 強調 それ 完了 締める 照応 複数 ベルト そして

hume nā malo, uhi nā ‘ahu‘ula, kōkī ho‘i nā mahiole,...

締める複数 マロ 纏う複数 アフウラ かぶる 強調 複数 マヒオレ

「...ベルトを締めて、マロ（ふんどし）を締めて、アフウラを纏って、マヒオレをかぶる時だ...」 (Desha 1996 vol.2:171)

最初の *kākua* については「(主に女性が着用する腰布)を巻く」という意味で着用動詞として既に 2.4 節で提示したが、ここでは「腰にベルトを締める」という意味で用いられている。二つの意味は、腰の地点で水平方向に巻き付けて着用するという意味としてまとめることができると思われる。二つ目の動詞 *hume* は 2.4.節で述べた事例と同様である。三つ目の動詞 *uhi* は衣服の着用に限らず様々なものを「包む・覆う」という意味で用いられるが、ここでは *‘ahu‘ula* 「アフウラ (羽のマント)」を「着用する (「纏う」)」という意味を表すのに用いられている。4つ目の動詞 *kōkī* は *mahiole* 「マヒオレ (羽製のヘルメット)」の着用を表すのに用いられている⁸。

また、Pukui and Elbert (1986: 147, 220, 320)は *kīhei*、*mahiole*、*pā‘ū* がそれぞれ、名詞としての用法に加えて、着用動詞として、「キーヘイ (肩から上半身を覆うショール) を着用する」、「マヒオレ (羽のマント) を着用する」、「パーウ (女性が腰に巻く腰布) を着用する」という意味を表すと記述している。例文は示されていないが主著者の Pukui はハワイ語学者であると同時にハワイ語のネイティブスピーカーでもあるため、ネイティブスピーカーとしての直観が反映されている記述であり信頼性は高いものである。更にデータを集めれば他の場所で用例が見つかる可能性がある。

⁸ Pukui and Elbert (1986:364)は *uhi* の意味として「包む、覆う、広げる」等の他に、羽のマントを着用するという意味を挙げている。また、Pukui and Elbert (1986:161)は *kōkī* の意味の一つとして、「ヘルメットを着用する」を挙げている。

2.8. 着用行為に関連して用いられるその他の動詞

前節までに述べてきた着用動詞の用例は、いずれも、着用される衣服等を目的語にとる他動詞として用いられ、「(人に衣服等を) 着用させる」のではなく「(自分の身体に衣服等を) 着用する」という意味を表すものであった。この節では、「何かを着用する」という行為に関連して用いられるものの、上述のような特徴から逸脱しているため、本稿での着用動詞に含めないこととした動詞について列挙する。

普段着を着用するのではなく、儀式などのために、普段着よりも立派な衣服や装飾品を身に着けるという場合に、前の節までで見てきた様々な着用動詞の代わりに *kāhiko* 「飾る」という動詞を用いて着用を表すことがある。自動詞的に用いて「(自分を) (何かで) 飾る」のように用いる場合と、人を目的語にして他動詞的に「(人を) (何かで) 飾る」のように用いる場合がある。

(19) E *kāhiko ana* ‘*oia me* *kekahi* ‘*a’ahu* ‘*ōma*‘*ōmao*.

未完了 飾る 指示詞 彼 ～で 或る 服 緑色の

「彼は或る緑の服で飾っていた」を着ていた。」

(Ka Leo o ka Lahui, Volume II, Number 803, 1 November 1893:1)

上記の例では、自動詞的に用いて「(自分を) 緑色の服で飾った」のように用いられており、結果として「緑色の服を着用している」ことを表している。

(20) *Kāhiko aku* *la* ‘*o Aiwohikupua* *i* *kona mau kaukuali*‘*i kane*,

飾る 方向詞 指示詞 人名 アイヴォヒクプア ～を 彼の 複数 家臣 男性

ame na kaukuali‘*i wahine*, *ame na punahele*, *i* *ka* ‘*ahu*‘*ula*, ...

～と 複数 家臣 女性 ～と 複数 寵臣 ～で 定冠詞 アフウラ

「アイヴォヒクプアは彼の家臣や寵臣達をアフウラで飾った。」 (Haleole 2001:90)

上記の例では、他動詞的に「家臣たちをアフウラで飾った」のように用いられており、結果として「家臣たちがアフウラを着用した」ことを表している。2.7 節までで示した着用動詞はいずれも、着用されるものを目的語にとり「(衣服等を) 着用した」という意味で用いられているのに対し、*kāhiko* 「飾る」は着用する人を目的語にとって「(自分を/人を) (何かで) 飾る」のように用いられており、何を目的語に取るかの点でも大きく異なっているため、本稿での着用動詞には含めないこととする

上記の例は人間が衣服等で着飾ることを表したものであるが、人間以外のものを飾り付ける場合にも *kāhiko* が用いられる。

- (21) Ua lawe nui 'ia ka maile no na ahaaina nui, ...中略....
 完了 持ち込む 多く 受動態 定冠詞 マイレ~のために 複数 宴会 大きい
 Ua kāhiko ia i na mea uliuli apau o ke kuahiwi, ...
 完了飾り付ける 受動態 ~で 複数 もの 緑の あらゆる ~の 定冠詞 山
 「大きな宴会のためにマイレ（植物）がたくさん持ち込まれた...(そこは)山のあらゆる
 緑のもので飾り付けられた。」 (Fornander 1917-1920 vol.5:617)

上記の例では、人間がマイレなどの緑を着用して着飾るのではなく、宴会の会場を飾り付けるという意味で kāhiko が使われている。

手首や足首に装着する腕輪や足輪を表すハワイ語に kūpe'e という語（名詞）がある。Pukui and Elbert (1986:185)によれば、この語は他動詞として「腕輪や足輪などを付ける」という意味も表すと記述されている。例文を探したところ、腕輪や足輪を付けられる人（の手/足）を目的語に取り「(人に) 腕輪/足輪を付ける」という意味の他動詞として用いられていると分析される事例があった。受動態で「(人が) 腕輪/足輪を付けられる」のように頻繁に用いられる。

- (22) Ua kūpe'e 'ia ko lāua mau lima me ka hao ...
 完了 腕輪を付ける 受け身 彼らの 複数 手 ~で 定冠詞 鉄
 「彼らの手は鉄で腕輪を付けられた＝鉄の腕輪を付けられた。」
 (Ke Aloha Aina, Volume VII, Number 33, 17 August 1901:3)

上記の例のように、腕輪や足輪の材質について「~で」（具格）でしばしば表示される。この kūpe'e の用例では、腕輪/足輪を付けられる人（の手/足）が目的語に相当し、2.7 節までで示した、着用されるものを目的語にとり「(衣服等を) 着用した」という意味で用いられている着用動詞とは、何を目的語に取るかという点で大きく異なるため、本稿での着用動詞には含めないこととする。

二つのものを結合するという意味で用いられる動詞に ho'opa'a 「付ける」がある。2.5 節で述べたレイやこの節の(22)の箇所でも例示した kūpe'e 「腕輪/足輪」等を着用する場合に、動詞 ho'opa'a 「付ける」を用いて表すことがある。

- (23) ...a ho'opa'a akula ma luna o ka 'ā'i o Kapi'olani
 そして 付ける 方向詞-指示詞 ~に 上 ~の 定冠詞 首 ~の K.
 i ka lei palaoa...
 ~を 定冠詞 レイ 鯨骨
 「...そしてカピオラニの首の上に鯨骨のレイを付けた... (Desha 1996 vol.1:222)

(24) ..a ho'opa'a iho la 'oia iāia i na kūpe'e hao.

そして 付ける 方向詞 指示詞 彼₁ 彼₂に ~を 複数 腕輪 鉄
「...そして彼₁が彼₂に鉄の腕輪をつけた。」

(Ka Nupepa Kuokoa, Volume XXV, Number 1, 2 January 1886: 1)

上記の例で、(23)ではレイ（ネックレス）を、(24)では鉄の腕輪を、それぞれ人に付けたということを表している。結果的に、(23)ではカピオラニが鯨骨のレイを、(24)では彼₂が鉄の腕輪を、それぞれ着用したことを表している。(23)も(24)も、「(何かを) (誰かに/どこかに) 付ける」という意味を表しているのに対して、2.7 節までで示した着用動詞では「(衣服等を) (自分に) 着用する」ことを表しており、着用されるものが向かう行き先が異なっているので、本稿での着用動詞には含めないこととする。

3. 考察

3.1. 動作と状態

ハワイ語においては、英語の *put on* と *wear* のような動作と状態による着用動詞の使い分けは見られなかった。その点で、日本語の着用動詞と類似している。以下、着用動詞 *komo* で例示する。

(25) Ua **komo** koke iho la au i ko'u lole i kela manawa

完了 着る 急いで 方向詞 指示詞 私 ~を 私の 服 ~に その 時

a iho no ka wa'a, ...

そして 下りる ~へ 定冠詞 船

「その時私は急いで服を着て、船へと下りて行った...」(Spencer 2000:64)

(26) He aha kēnā lole āu e komo nei?

不定冠詞 何 その 服 あなたの 未完了 着る 指示詞⁹

「あなたが今着ているその服は何。」(Kauhi 1996:14-15)

上記の例(25)は船の上にいる人物から呼び出しを受けて、「急いで服を着て船(のある海の方)へと下りて行った」場面であり、「急いで」という修飾語がついていることからわかるように「着る」という動作を表していると分析される。一方、「着ている」という状態を表す事例については、文を見ただけで明確に「着ている」という状態と判断できるような事例を文献資料の中から見つけるのは至難の業であり、文脈の分析によって「着ている」という状態を表していると判断できる事例を探すことになる。例(26)は、*mu'umu'u* というハワイの女性用の服が気に入っていつもその服を着ていたという著者が路上で遊んでいた時に、白人の観光客達に声をかけられ、その中の一人が、彼女の着ていたハワイの服装に興味をもって尋ねた

⁹ e 動詞 *nei* は現在時制を表す。

質問である。路上で遊んでいる時に声を掛けられた場面であり、路上で着替えをしているわけではないので、既に着用していてその時点でも着ている状態の服の種類を訪ねていると解釈され、「今着ている」という状態を表しているものと分析される。¹⁰いずれの例でも着用動詞は *komo* が使われている。

3.2. 身体部位の指定

ハワイ語でも、日本語と同様、身体部位の指定による着用動詞の使い分けが見られた。今回分析した着用動詞のうち、*komo* は頭に着用する帽子から、胴体に着用するシャツ、腰に着用するズボン、足に着用する靴まで広く用いられていたが、そのほかについては身体部位の指定が見られた。以下の表 1 に示す。今回例示した事例のうち、基本的な意味が着衣行為以外のものである動詞を斜字体で表示した。*hāwele* は「結ぶ」、*kau* は「置く」、*komo* は「入る」、*uhi* は「包む・覆う」がそれぞれ基本的な意味である。

<i>komo</i>				
‘a‘ahu				
<i>pāpale / kau / kōkī</i>	<i>lei</i>	<i>uhi</i>	<i>hume / kākua</i>	<i>hāwele</i>
頭	首	胴	腰	足

表 1 : ハワイ語の着用動詞と身体部位

尚、2.8 節で示した動詞については、本稿では着用動詞とはみなしていないため表 1 には含まれていない。

3.3. 動作様態

表 1 では同じ身体部位に複数の着用動詞が表示されている箇所がある。頭と腰である。頭の欄に表示されている *pāpale*、*kau*、*kōkī* については、現時点では、どのような使い分けがあるのか明確ではない。腰の欄に表示されている *hume* と *kākua* については、動作様態で説明が可能と思われる。*kākua* を用いるのは女性が腰に巻き付ける *pā‘ū* 「パーウー」(例 9) と、*pū‘ali* 「ベルト」(例 18) である、いずれも腰の地点で水平方向に巻き付けて末尾を留めて着用するものである。一方、もう一つの *hume* は男性が身に着けるふんどし *malo* 「マロ」(例 9) である。マロは単に腰の位置で水平方向に巻くのではなく、まず、垂直方向に股の下で挟み、そこから直角に曲げて、あとは水平方向に巻き付けて、末尾を留めて着用するものである。動作様態が明らかに異なっており、それが着用動詞の区分に結びついていると考えられる。

¹⁰ ちなみに、この書籍はハワイ語英語対訳となっており、英訳でも “What’s that dress you’re wearing?” となっている。

3.4. 主要衣類と二次的衣類

今回分析した事例の中で、二次的衣類に含まれる可能性がある着用動詞は lei「レイ」である。主要衣類と比べて、特に指摘できる差異は見られなかった。

3.5. 同族目的語

今回用例が収集できた着用動詞の中で、同族目的語を取っている例が見られたのは、‘a‘ahu (例 3)、pāpale (例 7)、lei (例 10) の四つである。しかしながら、2.7節の最後で言及したように、kīhei、mahiole、pā‘ū についてはそれぞれ名詞と同じ形の動詞が存在する可能性があり、もしそうであれば、同族目的語の事例が存在する可能性がある。多くの用例がある着用動詞 komo についてはそもそも名詞として衣類を表す用法が見られず、従って、同族目的語を取る例は見られなかった。komo は伝統的なハワイの衣類ではなく、欧米からもたらされた洋服の着用に使われることを考えると、同族目的語は、ハワイの伝統的な着用を表す、すなわち、古くから用いられている着用動詞で見られる傾向が指摘できるかもしれない。

3.6. まとめ

ハワイ語の着用動詞は日本語の着用動詞と同様に、動作と状態による使い分けはなく、身体部位の指定による使い分けが見られた。また、腰への着用については、動作様態の違いによると思われる使い分けが見られた。もう一つ、同族目的語をとることがある着用動詞が複数存在するという点も特徴的である。

もう一点、ハワイ語で特徴的なのは、伝統的な衣装と欧米からもたらされた洋服との区別である。着用動詞 komo は伝統的な衣類ではなく、欧米に由来する様々な洋服に使われるという点で特徴的である。

4. 今後の課題

今回は着用動詞のみを扱ったが、次は、脱衣動詞についても調べる必要がある。影山 (1980:102) は着用動詞で見られた日本語と英語の差が脱衣動詞で消滅すると指摘している。ハワイ語でも脱衣動詞の区分が着用動詞の区分とは異なる特徴を示すかどうか検証したい。

また、ハワイ語と同系のポリネシア諸語との対照にも進めていきたい。起源を同じくする同系の着用動詞の用法についてポリネシア諸語間で差異が見られないか、また、それぞれの言語で独自に発達した着用動詞の用法はないか、等について考察したい。

謝辞

* 匿名の 2 名の査読者から有益なコメントを頂いた。この場を借りて感謝申し上げたい。

参考文献

Desha, Stephen L. 1996. *He Moolelo Kaa No Kekuhaupio*, vols 1-2. Hilo: Hale Kuamoo.

Elbert, Samuel H. and Noelani Mahoe. 1970. *Na Mele o Hawaii Nei*. Honolulu: University of Hawaii Press.

- Elbert, Samuel H. and Mary Kawena Pukui. 1979. *Hawaiian Grammar*. Honolulu: University of Hawaii Press.
- Fornander, Abraham. 1917-1920. *Hawaiian Antiquities and Folk-lore*, vols 4-6, Honolulu: Bishop Museum.
- Haleole, S. N. 2001. *Ke kaa o Laieikawai*. Hilo: Hale Kuamoo.
- Handy, E. S. Craighill and Mary K. Pukui. 2006. *The Polynesian Family System in Ka'u, Hawai'i*. Honolulu: Mutual Publishing.
- Kauhi, Emma K. 1996. *He Moolelo No Kapaahu*. Hilo: Pili Productions.
- Pukui, Mary K. and Samuel H. Elbert. 1986. *Hawaiian dictionary, revised and enlarged edition*. Honolulu : University of Hawaii Press.
- Spencer, Thomas P. 2000. *Kaua Kuloko 1895*. Honolulu: Bishop Museum Press.
- Testa, Francisco J. 2003. *Buke Mele Lahui*. Honolulu: Hawaiian Historical Society.
- 影山太郎. 1980. 『日英比較 語彙の構造』. 松柏社.
- 金田一春彦. 1988. 『日本語 新版 (上)』. 岩波書店.
- <データとして引用したハワイ語新聞一覧>
- Ka Hae Hawaii.
- Ke Leo o Ka Lahui
- Ka Nupepa Kuokoa.
- Ke Alakai o Hawaii.
- Ke Aloha Aina
- Ko Hawaii Pono.

執筆者紹介

氏名 : 塩谷 亨

所属 : 室蘭工業大学ひと文化系領域

Email : shionoya@muroran-it.ac.jp